

『山海経』の図像学序説

——異鳥の同定——

朽尾 武

(一)

『山海経』を考究するには先ずその基本文献が必要である。現存する古文獻は『史記』の司馬遷の見た漢代のものではなく、後世の晋・郭璞（二七六～三二四）注本の宋・淳熙七年（一一八〇）池陽郡齋尤袤刻本である。今回使用するのには次の二本を基本に資料編1・2の「明・蔣応鎬画『山海経』」所載の絵図本である。

(1) 清・郝懿行撰『山海経箋疏』十八卷 図讚一卷 阮氏琅環仙館刻本 清・嘉慶十四年（一八九五）「四部備

要所収」

(2) 前野直彬著『山海経・列仙伝』（全釈漢文大系）集英社 一九七五年・十月二十日

(2)は通し番号を用いた。この書は異鳥の同定はしていないが、「一『山海経』の出現」以下の解説は出色である。忘れてならないのが、小川琢治著『支那歴史地理研究』初集 弘文堂書房 一九二八年九月一日である。二十余年にわたる雑誌論文を集成したもので「山海経の篇目及び錯簡」以下の論考は以後の考証研究のピラミット的研究である。郭璞の『山海経注証』にも影響を与えたと思える名著である。日本に於ける研究は多くあるが、今回は省略す

る。

『山海經』の著者は明確でない。前漢の司馬遷（前一四五—？）が『史記』大宛伝に書名を伝えたのが初めて、後漢の斑固（三二—九二）が『漢書』の「芸文志」に「山海經十三篇」とある。この志は前漢末宮廷の書庫にあった書を劉向（前七七—前六）等が整理しその子の劉歆（劉秀）とともに完成したものであり、漢代に初めて『山海經』が認知された。

經の著者は伯益（『論衡』）とか夏の禹王（『列子』）とか言われるが、確証はない。

この書は周秦間の人が述べたものに後人が付益したものと確証がない。現行本『山海經』は郭璞の校定した十八巻本であるが、二十三巻『隋書經籍志』十三篇や、前記の『漢書芸文志』の十三篇等疑問がある。

前野直彬氏は解説の「三『山海經』の性格」に、第一は地理書、第二は異物志、第三は祭祀の書、第四は祭祀に關連するが、卜占の書とする。異鳥類はこの第二に当る。

異鳥類の同定は經の性格を勘案して、諸条件を検討して考証することになる。

(二) 『太平御覽』『古今圖書集成』の異鳥名目について

『太平御覽』卷九二七卷 羽族部一四（異鳥）には十九種の異鳥が典拠と共に掲載されている。資料3「『太平御覽』『古今圖書集成』異鳥類名目一覽」（以下「名目一覽」と略称する）参照。第一に「鵬」を置くが、多くは志怪と称すべき鳥が主である。『山海經』に關係ある鳥は7兼兼（比翼鳥）、14鴞の二鳥である。御覽の典拠とする書籍が正史類もあるが、多くは「志怪」の書である。すなわち、御覽の異鳥類は怪鳥、奇鳥の類である。それに対して集成は文化地理としての性格を持ち、今様に言えば旅行記である。その名目に引く①から⑤までは『山海經』に見える異鳥類で、⑥から⑦の異鳥は『山海經』に見えない鳥である。また、⑧から⑩までの諸鳥は図を欠く。

参考まで⑤以下の諸鳥を集成の本文を見ると、

⑤鵬は御覽1に引く鵬と同鳥である。『莊子』逍遙遊「北溟に魚有り、其の名を鯀と為す、鯀の大いなる、其の幾千里なるを知らず。化して鳥と為る。其の名を鵬と為

す。鵬の背、其の幾千里なるを知らず。怒して飛べば、其の翼は垂天の雲の若し。是の鳥や、海運れば則ち將に南冥に徙らんとす。南冥とは天池なり。齊諧とは、怪を志す者なり。云々」。

この引用文の言うが如く、鵬は志怪の世界の異鳥である。北溟とは北の海。鯤は想像上の大魚。鵬は鳳、想像上の大鳥。海運は海の荒れること。齊諧は書名。齊の国の怪異を記したものである。御覧の名目の初めから志怪の書であり、その掲載する異鳥が怪鳥の類であることを暗示する。集成が『山海経』の後に置いたことにも納得できる。集成にはこの他に『列子』殷湯篇、『淮南子』説林訓、『正字通』を典拠として引く。

⑤③ 嗽金鳥は金を吐くという鳥、『拾遺記』に「嗽金鳥魏の明帝即位二年、靈禽之園を起す。遠方の国獻する所の異鳥・珍獸、皆此の園に畜へるなり。昆明国、嗽金鳥を貢ずる人云ふ。其の地燃洲を去ること九千里、此の鳥を出す。形雀の如くして色黄なり。羽毛柔密、常に海上を翱翔す。羅る者、之を得て以て至祥となす云々」。魏の明帝二年（二二八）。靈禽園は魏のすぐれて珍しい鳥を集めた園。昆明国は『拾遺記』（晋の王嘉の撰）によれば建

寧郡寧州の地、今の雲南省昆明県の地。翱翔は鳥が高く飛ぶさま。

⑤④ 飛廉 風の神、よく風を起す神禽。『続博物志』神禽「漢の明帝永平五年、長安、飛廉並びに銅馬を西門外の上に置く、晋灼曰く、飛廉鹿身、頭雀の如く角有りて蛇尾豹文なり。応劭曰く、飛廉は神禽なり、能く風雨を致すなり」と。『三才図会』龍雀「郭璞曰く、飛廉龍雀なり。鳥身にして鹿頭なり。『風俗通』に飛廉は神雀なり。能く風雨を致すと。」

⑤⑤ 無対鳥 今の風鳥、極樂鳥。鳳凰のモデルであることを忘れられていたと思える。集成の異鳥図のように足を切った形で古来輸入されていたらしい。『坤輿図説』無対鳥「亜細亞州瓜哇島等の処に無対鳥有り。足無く腹下に長皮を生ず。筋の如く樹枝に纏り、以て身を立つ。毛色五彩、光耀愛す可し。其の飲食の意見えず。惟だ氣を服するのみ」。無対鳥とはならぶものが無い靈鳥の意。『坤輿図説』この書は清西洋南懷仁撰、康熙十三年（一六七四）序刊の地理書。南懷仁はベルギー人フェルジナンド・フェルビースト (Ferdinandus Verbiest) の中国名。図は下巻に所収。

⑤6 白露国雞 南アメリカのペルー産の七面鳥。『坤輿図説』白露国雞「亜墨利加州白露国産雞、大いさ常雞の數倍の如し。頭は身に較べ小、生れながらに肉鼻有り、能く縮め能く伸ばす。色稍白く灰色有り、天青色有りて等しからず。惱怒すれば則ち血鼻上に聚り、紅色に變ず。其の時、尾を開き孔雀の如し。渾身毛色黒白、相間り生みし子の後、甚だ愛養せず、人の照管を須て、方に存活するを得たり」。この文により七面鳥が子育てをしないことを言うが、この生態をよく写している。

⑤7 伯西爾喜鵲 ブラジル産のオオハシ。オオハシ科オオハシ属の鳥。オニオオハシか。

。『坤輿図説』喜鵲「南亜墨利加州伯西爾喜鵲は吻長くて軽く、身と相等し。約長八寸、空明にして薄きこと紙の如し」。空明とは吻が長く軽く、吻が中空であることという。鳥類は身を軽くするため、吻や骨の中が中空になっている。

右に引いた六種の異鳥のうち「鵬」「嗽金鳥」「飛廉」は空想や伝説上の鳥であるが、「無対鳥」「白露国雞」「伯西爾喜鵲」は実在の鳥で、産地から輸入され宮殿の禽鳥園に飼育されていたと考えられるが、特に「無対鳥」は注目さ

れる。この鳥は紀元前から中国や西洋に輸入されていたようで、良く知られ、図は剥製であるが、足のない姿でもたらされたという。「風鳥」は一生成空を飛翔していたとの考えからの命名であろう。「鳳」は「風」から生れた字である。「鳳凰」はこの「無対鳥」のことで、早くから知られていたであろう。

異鳥という語の定義を初めにすべきであったが、以上紹介した異鳥類名目で見当がつくと思えるが、珍しく不思議な怪鳥、奇鳥であると共に集成の「無対鳥」以下のような舶来の珍鳥も加えるべきであろう。

『太平御覧』の異鳥が志怪系の鳥を中心に行っているのに対して『古今圖書集成』に引く51種（有図）の『山海経』の異鳥が文化地理系の書の鳥であり、旅行記でもあることが了解できる。

(三) 『山海経』異鳥類の同定

異鳥の同定に当り、先行文献の調査が必要である。今回使用する文献は次の如くである。

(A) 郭邦、ニードム等著『中国古代動物学史』科学出版社

一九九九年

(B) 趙正階編著『中国鳥類志』上・下 吉林科学技術出版社 二〇〇一年六月

(C) 郭鄂注著『山海経注証』中国社会科学出版社 二〇〇四年五月

(D) 銭燕文等編『中国鳥類図鑑』河南科学技術出版社 一九九五年一月

(E) 白井祥平編著『世界鳥類名檢索辞典』学名篇・英名篇・和名篇 一九九二年七月十四日

(F) 山階芳麿著『世界鳥類和名辞典』大学書林 一九八六年五月三十一日

(G) 衛挺生考釈、徐聖謨製図『山経地理図考』中華学術院 中華民国六十三年(一九七四)八月

(H) 徐客編著『図解山海経』南海出版公司 二〇〇七年十月

以上主要書を記したが、その他の書は「『山海経』異鳥資料」(1)(資料15)参照。地理書は異鳥の地理分布を知る為に必要な。文献(B)(C)(D)(G)(H)が重要資料となる。また「『山海経』異鳥類姿態一覧1〜4」(資料4〜7)は異鳥の特徴を総合的に判定する基礎資料となる。

同定するには(1)身体 (2)人面形 (3)頭首 (4)目 (5)耳 (6)喙 (7)足 (8)爪 (9)尾 (10)毛 (11)翼 (12)色彩 (13)鳴声 (14)他鳥に似る (15)その他の特徴を精査する必要がある。(1)から特徴ある例を拾ってみよう。「異鳥類姿態一覧」の通し番号によって特徴ある例を示してみよう。この番号は『山海経』の通し番号と一致する。

(1)身体 (44)鳩渠(黒身) (122)人面鵞(雌身)

(2)人面 (30)瞿如(人面) (122)人面鵞

(3)頭首 (57)櫟(赤翁) (60)鷗(両首) (135)白鶻(文首) (169)鷗

鷗(首白)

(4)目 (7)鷓鴣(六目) (292)鳩(朱目)

(5)耳 (38)鷓鴣(有耳) (308)駄鳥(有耳)

(6)喙くちばし (47)鷓鴣(赤喙) (85)鷓鴣(直喙) (95)畢方鳥(白喙)

(25)鷓鴣(青喙)

(7)足 (58)数斯(人足) (44)鳩渠(赤足) (135)白鶻(黄足) (256)

𪗇雀(单足) (48)畢方鳥(一脚) (45)鳴鷓(赤足) (11)鷓

(人手) (7)鷓鴣(六足) (30)瞿如(三足) (60)鷗(四足)

(8)爪 (85)欽鴉(虎爪) (256)𪗇雀(虎爪)

(9)尾 (167)鷓鴣(赤尾) (24)絜鉤(单尾) (403)跂踵(詭尾) (418)

𪗇勺(尾若勺) (420)青耕(白尾) (122)人面鵞(犬尾) (102)鷓

鶉(六尾)

(10) 毛 (57) 櫟 (赤翁) 頭下毛

(11) 翼 (7) 鶉鶉(三翼) (81) 蠻蠻(一翼) (135) 白鶉(白翼) (161)

鶉(四翼)

(12) 色彩 (31) 鶯鶯(五采) (81) 蠻蠻(青赤) (121) 鶉(黄色) (225)

鶉鶉(赤如丹火) (182) 鶉鶉(白文) (169) 鶉鶉(音白身青足黄)

(13) 鳴声 (31) 鶯鶯(自歌自舞) (8) 灌灌(音如呵) (11) 鶉(名

自鶉) (30) 瞿如(鳴自号) (85) 欽鴉(音如晨鴉) (91) 胜遇

(音如録) (95) 畢方鳥(鳴自叫) (135) 白鶉(音夜) (136) 竦斯

(鳴自呼) (167) 鶉鳥(鳴自詆吳人呼を詆という)

(14) 他鳥に似る

(31) 鶯鶯(状如雞) (47) 鶉鳥(状如翠) (98) 鶉(状如鶉) (121)

鶉(鶉似燕) (76) 酸與(状似蛇)

(15) その他の特徴

(7) 鶉鶉(郭注急性) (49) 肥遺鳥(殺虫) (52) 橐^{たぐひ}悲(冬見夏

蟄^か) (102) 鶉鶉(善笑) (109) 当扈(髯飛) (121) 鶉(穿地入数尺)

(136) 竦斯(見人躍跳) (161) 鶉鶉(宵飛昼伏) (167) 鶉鳥(善鶯)

(172) 象蛇(自為牝牡) (24) 絜鉤(善登木)

右に示した例を先行の研究書を参考に異鳥の同定を行うのであるが、(4)の目についてもその色を知るのに大切であ

るし、喙、足(脚)の形や色も重要な決め手になる。(13)の鳴声も重要である。鳴声による命名の例も多くある。「呼」という字と同意に使われる「詆」が吳(江蘇省の旧名)で使われているということで、これにより当該異鳥の分布地を知ることが出来る。ただ『山海経』の書かれた春秋戦国時代より以前か漢・三国・晋時代の鳥の分布域が現在と同じであるかどうか解らないので鳥類志や鳥類図鑑の分布域は同定の目安として使うべきである。同定の参考文献の(C)の『山海経注証』は「中国図騰(トーマス)学史、中国自然史博物館、中国科学技術文化発展源流史、中国民族源流史」という多方面に及ぶ書であるから、異鳥の同定に重要な文献である。また(B)の『中国鳥類志』は分布・生態その他総合的に鳥類を知ることが出来る。(D)の『中国鳥類図鑑』は図版等を資料として転載した重要な文献である。

次に異鳥の同定を⑦鶉鶉と御覧名目(7)兼兼(比翼鳥・蠻蠻)と集成の名目(14)蠻蠻を具体的に同定する手順を『山海経』異鳥資料(1)と(2)(資料15・16)を用いて行ってみる。

⑦鶉鶉『山海経』「異鳥資料」(1)参照。

(A)の『中国古代動物学史』(以下動物学史と略称)によ

るとこの鳥は鶻(hie)(hi)と発音し鶻雉すなわち白腹錦鶏(ギンケイ)或は紅腹錦鶏(キンケイ)と同定する。五体本文の郭璞注(隸書部分)だと急性とする。急性とはセわしく動くことをいう。(B)の『中国鳥類志』(以下鳥類志と略称)によるとギンケイはその習性として四〜十羽にて群体活動をし、冬期には二十〜三十羽の大群をなす。善く奔走する。キンケイも群れで活動する。鳴声は扑(撲)とくびくする。性格は機驚(機敏)で胆怯(気小さくびくびくする)人を怕れるという。ギンケイと同じく善く走る。郭注の「急性」と合致する。

三首六目といふ足を二本揚げた姿は群生し、善く走る様を表現している。集成図の原図は胡文煥の『新刻山海経』明・万曆二十一年(一五九三)格致叢書所収のものである。『山海経』の絵図を集成した馬昌儀著『全像山海経図比較』七巻が画像石等考古資料等により考証した決定版である。この手二本を持つ鳥は始祖鳥の化石か、南アフリカ北部に生息するツメバケイ(ホアチン)に暗示を得たかも知れぬが、確証は無い。中国は化石が多い国であるので、古代の生物の同定において考慮すべきであろう。

『山海経』図の古いものは明・嘉靖十七年(一五三八)

序刊の王崇慶撰『山海経积義』次いで明刊本の蔣应鑄『山海経』等があるが、経創作時の古図はない。

鶻鶻の居るといふ基山は(C)の注証・(G)の図(H)の『図解山海経』等により、広東省、福建省等が考えられる。ギンケイは地理分布は(B)の鳥類志によると西藏東南部、四川中部・西部と西南部、貴州西部と西南部、広西西部と雲南大部分等で、広東・福建とは一致しないが、分布地は時代により変遷するので今の分布は目安になる。キンケイでも同じことが考えられる。キンケイの地理分布は青海東南部、甘肅西部と東南部、寧夏南部、陝西南部、四川北部・中部と東部、湖北西部、湖南西部、雲南東北部、貴州西部と東部より広西東部等の地である。こちらも広東・福建とは一致しない。多くの鳥類を検討してみたが、断定出来るものはない。

俗書である「中国日用類書集成」一九九九〜二〇〇三汲古書院刊の諸書は万曆二十五年(一五九七)刊の『四民利用便覧五車拔錦』所収の「山海異物」の鶻鶻図もやや二本足を掲げているように見える。絶滅種も考慮する必要である。

やや釈然としないが、今のところギンケイとキンケイ説

に随うことにする。

⑧(兼兼(蠻蠻・比翼鳥)「異鳥資料」(2)参照。

(A)の動物学史によると紅頭潜鴨(Aythya ferina)ホシハジロ等の潜鴨とする。馬昌儀説では緑頭鴨(マガモ)とする。経の本文によると、鳧(カモ)のようで、一翼一目で、二羽が相手を得て飛ぶ。名を蠻蠻という。郭璞の注では比翼鳥である。色は青赤である。比ばずに飛ぶことができない。「爾雅」を引いて鵝鵝鳥であるという。潜鴨類は鴨類であるが青赤の潜鴨は居ない。緑頭鴨(マガモ)が妥当であろう。その習性は繁殖期を除いて群生活動をする。雌雄がつがいで飛ぶのも珍しくない。色が青赤とは雌鳥は黄褐色で雄鳥は頭は緑で全身が青系である。雌雄が赤青色のつがいで飛ぶ姿を比翼と考え、これが緑頭鴨が比翼鳥と同定できる。紅頭潜鴨(ホシハジロ)も誤りではないと思える。

強いて加えるならば鴛鴦もつがいで行動するので検討の余地はある。

マガモの地理分布は東北、西北、内蒙古と西藏等で繁殖し、中部と東南部或は東北と華北地区で越冬するという。

右のような手法で異鳥類の同定を行うが、よほど精度を

高めねばならない。鳥類図鑑類は紹介した諸書の外に次のような書を参照した。また省別の鳥類図鑑類があるが省略した。

(I)曲利明主編『中国鳥類図鑑』上・中・下 海峡出版發行集団 二〇一三年一月

(J)劉光美、張詞社主編『中国野鳥』中国林業出版社 二〇〇二年七月

(K)郭冬生、張正旺主編『中国鳥類生態大図鑑』重慶大学出版社 二〇一五年五月

右の書は鳥類の生態研究に貴重である。

太平御覽 古今圖書集成 異鳥類不白一覽

太平御覽

第九十二卷 羽族部一四

(異鳥)

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
不孝鳥	鬼軍	鷓鴣																

古今圖書集成

禽蟲考五十三卷

異鳥類考一

北	山	經	西	山	經	南	山	經
22	21	20	19	18	17	16	15	14
鷓鴣								

禽蟲考五十四卷

異鳥類考一

圖缺

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
鷓鴣																						

83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
鷓鴣																									

(西山 5 豎)

① 紫吾之山 鬚鬚(鷓鴣鳥比翼鳥)①1. ③3. ③8. ③25. ④10. ④集成14
 狀如鳥(綠頭鴨^{カヅ} ④4(カ), ④6(カ), ④21(カ)).
 一 鬚鬚 或(鬚鬚才^カ)
 音如 首.
 (郭注)色青赤(郭注)一青一赤.
 見天下大水
 (郭注)非瑞禽.

② 鍾山 欽鳩 ①集成15
 化為大鷲(鷲ニサ工 或蒼鷹才^カカ或紅脚隼^{アカアノヲウ}才^カ)
 狀如雕
 黑 文
 白 首
 赤 喙
 虎 爪
 音如 展鵲(郭注)鸞屬.
 見 大丘鼓.

(鍾山) 鐘鳥 ①集成16
 化為鐘鳥(鐘鳥オガノクワ^カ或金鷄イカ^カ)
 狀如鷄
 赤 足
 直 喙
 音如 鵲
 見 邑大早

③ 昆侖之丘 欽原 ①集成17
 狀如鵲(鳳頭轉鷹^{ハクマ})
 大如鴛鴦

④ 玉山 駐蹕 ①集成18
 (西王母居^カ) (普通翠鳥^カカセ^カ或赤翡翠^{アカヒツ})
 狀如隼
 赤(色)
 食 魚
 音如 鵲(郭注)義木評(郭注)吳氏 鐘.
 為鹿之假借
 見 國大水.

⑤ 章義之山 畢方鳥 ①2. ②1. ③8. ④4. ⑤1. ⑥1. ⑦1(カ) ⑧15(カ). ⑨集成19, 50
 狀如鶴(赤頸鶴^{オヅル}或黑頸鶴^{オグヅル})
 一 赤 文
 青 質
 白 喙
 鳴 自叫
 見 邑有鶴(郭注)蘇綜注東原賦. 畢方老丈神如鳥. 一足兩
 (注) 翼常衝大柱人家作怪樂.

⑥ 翼望之山 鵲鶴 ①18. ②15. ③20. ④23. ⑤22. ⑥11(カ). ⑦16(カ). ⑧8(カ). ⑨集成21, 25.
 狀如鳥(松鴉^カ)
 三 首
 六 尾
 善 笑
 服 使人不服.(郭注)夢也.
 可 禦 災.

東嶽山異物①

⑦ 上申之山 當尾 ①18. ②26. ③9. ④17. ⑤9. ⑥22(カ). ⑦集成22.
 狀如雉(楊梅鷄^{ミヅジ}或大鷄^カ)
 以 髀 飛.
 (郭注) 臨丹華經) 791(大夏西經)
 食, 不 目 目.

⑧ 壺山 白雉 ①11. ②28. ③12. ④12

⑨ 鳥鼠同穴 余鳥(鼠名曰鼠)①4. ②5. ③15. ④24. ⑤15. ⑥13(カ). ⑦集成23.
 (郭注) 鶴似燕. (黑喉雪雀^{モロコエナズメ})
 黃 色
 穿 地 入 數 尺. 鼠 在 洞. 鳥 在 外.
 (鳥為雉雉(古尚書傳)
 不為牡牡(疑地理記)

⑩ 山淹蔽之山 人面鳥 ①集成24
 狀如鷄(長尾林鷄^{フクロ}或猛鷄^{オガノクワ}或女林鷄^{メノクワ})
 人 面
 雌 身
 犬 尾
 名 自 鷄
 見 邑大早

北山經 26(2)ウラヒ

⑪ 單張之山 白雉 ①23. ②17. ③26. ④19(カ). ⑤集成27.
 狀如雉(淡腹石鷄^カ或石鷄^カ)
 文 首
 自 翼
 黃 足
 音 夜
 食 已 噉 痛.

⑫ 灌題之山 踈狌 ①4. ②8. ③10. ④7. ⑤9. ⑥8(カ). ⑦22(カ). ⑧集成28.
 狀如此雉類(雉鷄^カ或石鷄^カ)
 人 面
 見 人 躍 跳
 鳴 自 呼

⑬ 北翼之山 鷓鴣 ①集成29
 狀如鳥(花頸鷓鴣^カ或鳥林鷓^カ)
 人 面
 背 飛 書 杖(郭注)鷓鴣之屬
 食 已 渴(郭注)中熱.

⑭ 渠梁之山 翼 ①集成30
 狀如夸父(或學父)(長尾林鷄^{フクロ})
 四 翼
 一 首
 犬 尾
 音 如 鶴
 食 已 腹 痛
 可 止 懈(郭注)治痢下.

⑮ 太行之山 歸山 鷓鴣 ①集成31.
 狀如龍(日喉紅尾鷓鴣^カ或北紅尾鷓鴣^カ)
 自 身
 赤 尾
 六 足
 善 鳴 自 詠.(郭注)吳人呼詠.

北山經

(169) 馬成之山 屬屬 ①集成32.

狀如馬 (黃脚綠鵠ヲシテハ或藍鵠ノムル)
首自青
足自黃
鳴自設
食不飢
可已飽 (郭注) 沐詳

(172) 陽山 象蛇 ①集成33.

狀如雌雉 (雉鵠コウライキジ或白冠長尾雉 オガキジ)
五采以文
自為牝牡
鳴自設
食已狂

(176) 景山 酸樂 ①集成34.

狀似蛇 (草鷲4ヲサキサギ)
四六三
鳴自設
見邑有恐 (郭注) 食不醉

(182) 不侯之山 委鳥龍 ①集成35

狀如鳥 (鳥龍トモシキコ或黑龍ホレカラス)
目自文
食不瀟 (郭注) 不眩目

(188) 酸鵠之山 精衛 ①21. ②4. ③14. ④22. ⑤10 (44). ⑥1 (成) ⑦集成36.

狀如鳥 (山斑王鵠キハシト或須浮鵠ノコヲアヒサレ)
文首
自喙
赤足
鳴自設
妾帝之少女姓
女姓游東海 溺不反
衛西山之木石 瀟東海

東山經

(217) 拘狀之山 蟄鼠 ①14. ②20. ③24. ④13. ⑤24. ⑥6 (44). ⑦20 (44). ⑧3 (成). ⑨集成37.

狀如雞 (白冠長尾雉 オガキジ或大鵠コウライキジ)
山鼠毛
見邑大旱

(244) 石山 藟樹 ①20. ②10. ③13. ④19. ⑤13. ⑥7 (44). ⑦15 (成) ⑧集成39

狀如鳥 (大斑王鵠木鳥ヒメクマゲラ或黑枕綠啄木鳥ヤ)
鼠尾
藟木
見邑多疲

(256) 北號之山 魁雀 ①集成39

狀如雞 (高山凡鷲ヒトマヲアハケレ)
首足凡
鼠虎食

中山經

(292) 青要之山 鴝 ①3. ②15. ③4. ④3. ⑤2 (44). ⑥集成40.

狀如鳥 赤尾 (鴝鴝オシ)
青身 食宜子

(308) 前山 鳥次鳥 ①集成41.

狀如鳥 (鵠鴝フシニミヌク或長耳鵠トラスク)
三有耳
音如錄
食已整 (郭注) 未聞

(323) 厲山 鴝鵒 ①集成42

狀如山雞 (紅腹角雉ベニジヤイ)
長尾
赤如耳
青喙
鳴自呼
服不昧

(385) 滄山 鶡鶩 ①9. ②5. ③6. ④4 (44). ⑤集成43.

滄山鶡鶩 (鶡鶩ニミヌク或赤林鶡オカクワク)
赤身
首 (郭注) 今呼 小青雀 曲背肉色着為鶡鶩 翅比此也
可禦火
山海經云 滄山經曰 鶡鶩為鶡 (イカル)

(403) 獲州之山 鼓鐘 ①集成44

狀如鶡 (鬼鶡カノクワク)
一尾
見國大度
(郭注) 鼓鐘 一足似鐘 不為樂與 反未壯

(415) 支離之山 鷓鴣 ①集成44

狀如鶡 (紅頭鷓山ツルヤク)
赤目
赤喙
身日尾
若勺 (郭注) 似酒勺形
鳴自呼

(420) 董理之山 青耕 ①2. ③6. ④3. ⑤12. ⑥1 (44). ⑦集成46.

狀如鶡 (灰青鶡オナガ或毒帶鳥カワリサンコウヤク)
青身
白喙
自尾
可禦疫
鳴自呼 t. seŋ keŋ (çing çeng)

(452) 雙陽之山 鷓鴣 (高余) ①7. ②34. ③12. ④3. ⑤12. ⑥6. ⑦844. ⑧204. ⑨144. ⑩144. ⑪144. ⑫144. ⑬144. ⑭144. ⑮144. ⑯144. ⑰144. ⑱144. ⑲144. ⑳144. ㉑144. ㉒144. ㉓144. ㉔144. ㉕144. ㉖144. ㉗144. ㉘144. ㉙144. ㉚144. ㉛144. ㉜144. ㉝144. ㉞144. ㉟144. ㊱144. ㊲144. ㊳144. ㊴144. ㊵144. ㊶144. ㊷144. ㊸144. ㊹144. ㊺144. ㊻144. ㊼144. ㊽144. ㊾144. ㊿144.

林陽山(異物)

狀如鷓 (紅口背山鴉 ベシハレガラク).
赤足
可禦火

海外南經

(47) 羽民國華方鳥 ①集成30 494

人面
一脚

海外西經

(472) 女祭交威 蓬鳥 ①集成48.49

色青黃 (④鳥鴉ハタケコロク大等胸鴉鴉オカドマイレコ).
所經之國 (④長得鴉トラスク或短耳鴉コニミツク).
(郭注) 應禍之鳥集 鴉龍之類.
在女祭之北.
鷓鴣人面.
居山上.

大荒西經

(722) 鳥身 ①集成57

青身 赤足
鳥身 (短尾綠鸚鵡ハシカカ或藍綠鸚鵡ハナカカ)

山海異物殘餘

雷山 玄鷓 ①3. ②2. ③7. ④5. ⑤2. ⑥2(2x). ⑦190(成)

粹黑如漆
者滿三百六十歲.
色純黑
王者以昔樂之節至.
黃帝習樂於黃帝山.
玄鷓飛翔.

朝鮮 長尾鷓 (長尾鷓) ①8. ②10. ③31. ④15. ⑤10(成)

狀如鷓
身長三尺

西山 馬兜粟鳥 ①9. ②9. ③30. ④14. ⑤9(2x). ⑥6(成)

頭高七尺餘 (ガチョウ)
狀如鷓

嘉谷山 馬鷓 ①10. ②12. ③29. ④13. ⑤11(成)

狀如鷓 (揚馬鷓ニミナリ)
嘴脚紅
羽老青綠

大谷山 (④の山) 櫻 ①13. ②21. ③14. ④25

狀如鴉 (松懸ハシイサイサコフ(ローロツバサイサコフ))
人足
食已瀝

古今圖書集成 異鳥部殘餘

- (1) 北冥 (莊子逍遙遊) 鸚鵡 集成58
- (2) 終發北之北 (列子岐陽篇) (朋鳥本門 想像上の鳥)
- (3) 滌波 (淮南子說林訓)

- (1) 鸚鵡 (鳥) 大不知幾千里 化為鳥 為朋鳥
背不知幾千里
舒騰 翼若垂天之雲
海雲伊南溟 (天地) 水擊三千里 搏扶搖上九萬里...
- (2) 翼若垂天之雲
- (3) 滌波之ケツの鳥名 鴉
- (4) 梵書 伽樓羅 金翅鳥 (正字通)

魏明帝靈會之圖 (拾遺記) ①集成53

嗽金鳥 昆明國貢 丈餘 洲九千里
形如雀
色黃
羽毛柔密
常翔海上
銜真珠
飲龜膽
吐金屑 如粟

長安 飛廉 集成54

六神 禽 (應劭注) 能致風雨 (續博物志)
鹿身
頭如雀
有角
蛇尾
豹文
青雀 (三才圖會)
鳥身
鹿頭
神雀 (風俗通)
致風雨

亞細亞洲 瓜哇鳥 無對鳥 集成55

無足 (風鳥 無足鳥)
腳下生長波 (坤輿圖說 無對鳥)
如聯繩 攀於樹枝 以立身
毛色五彩 光耀可愛
不見飲食 腹氣已

亞墨利加洲 白露國 異種 (坤輿圖說 白露國 雞) 集成56

大如常雞 畏倍 (七國鳥 meleagris gallopavo 3727777)
頭較身小
肉鼻能縮 能伸
鼻色有稍白 有灰色 有天青色
不啻十箇 唇 血聚鼻上 變紅色 開尾如孔雀 澤身毛色黑白

南亞墨利加洲 伯西爾 伯西爾 異種 (坤輿圖說 鳥龍) 集成57

吻長而平 約長八寸 薄如紙 (=オオハ Romphastos toco)

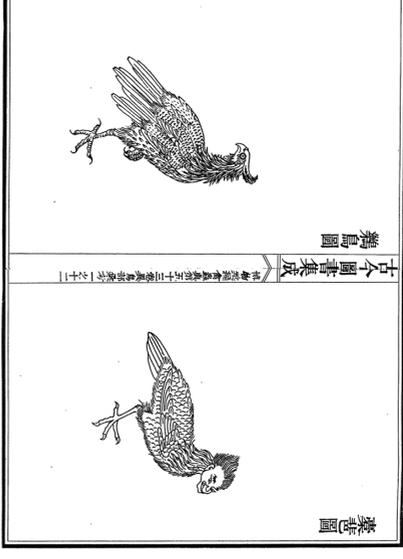
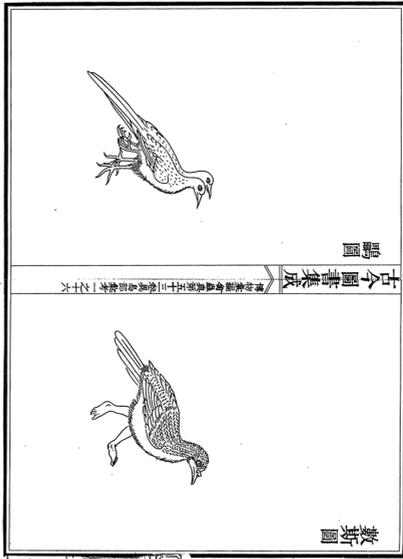
12

11

E 8

10

13

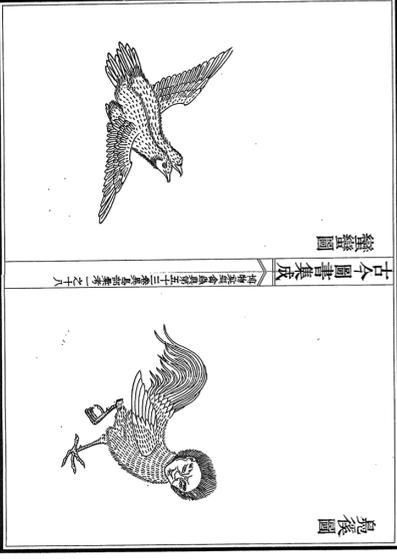


16

15

14

13



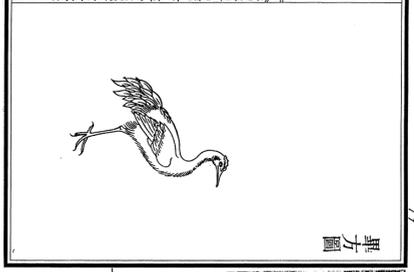
17



A 2

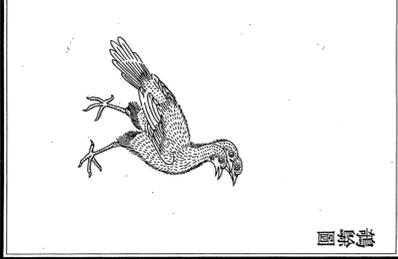
④鷲 ⑤鷹 ⑥鵟 ⑦鵞 ⑧鵝 ⑨雁 ⑩鴛鴦 ⑪鴛鴦 ⑫鴛鴦 ⑬鴛鴦 ⑭鴛鴦 ⑮鴛鴦 ⑯鴛鴦 ⑰鴛鴦 ⑱鴛鴦 ⑲鴛鴦 ⑳鴛鴦 ㉑鴛鴦 ㉒鴛鴦 ㉓鴛鴦 ㉔鴛鴦 ㉕鴛鴦 ㉖鴛鴦 ㉗鴛鴦 ㉘鴛鴦 ㉙鴛鴦 ㉚鴛鴦 ㉛鴛鴦 ㉜鴛鴦 ㉝鴛鴦 ㉞鴛鴦 ㉟鴛鴦 ㊱鴛鴦 ㊲鴛鴦 ㊳鴛鴦 ㊴鴛鴦 ㊵鴛鴦 ㊶鴛鴦 ㊷鴛鴦 ㊸鴛鴦 ㊹鴛鴦 ㊺鴛鴦 ㊻鴛鴦 ㊼鴛鴦 ㊽鴛鴦 ㊾鴛鴦 ㊿鴛鴦

18



20

21

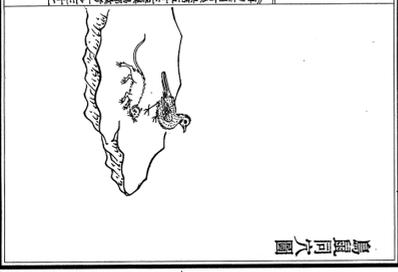


22

C 20

①鷲 ②鷹 ③鵟 ④鵞 ⑤鵝 ⑥雁 ⑦鴛鴦 ⑧鴛鴦 ⑨鴛鴦 ⑩鴛鴦 ⑪鴛鴦 ⑫鴛鴦 ⑬鴛鴦 ⑭鴛鴦 ⑮鴛鴦 ⑯鴛鴦 ⑰鴛鴦 ⑱鴛鴦 ⑲鴛鴦 ⑳鴛鴦 ㉑鴛鴦 ㉒鴛鴦 ㉓鴛鴦 ㉔鴛鴦 ㉕鴛鴦 ㉖鴛鴦 ㉗鴛鴦 ㉘鴛鴦 ㉙鴛鴦 ㉚鴛鴦 ㉛鴛鴦 ㉜鴛鴦 ㉝鴛鴦 ㉞鴛鴦 ㉟鴛鴦 ㊱鴛鴦 ㊲鴛鴦 ㊳鴛鴦 ㊴鴛鴦 ㊵鴛鴦 ㊶鴛鴦 ㊷鴛鴦 ㊸鴛鴦 ㊹鴛鴦 ㊺鴛鴦 ㊻鴛鴦 ㊼鴛鴦 ㊽鴛鴦 ㊾鴛鴦 ㊿鴛鴦

23



24

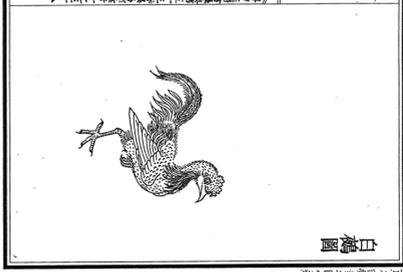


28



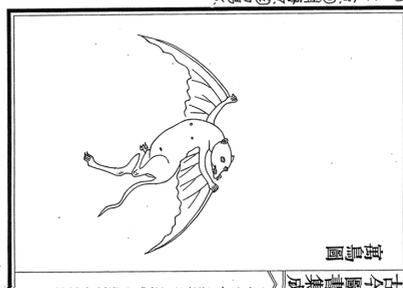
波斯圖

27



白鳩圖

26



窮鳥圖

25



鶻鳥圖



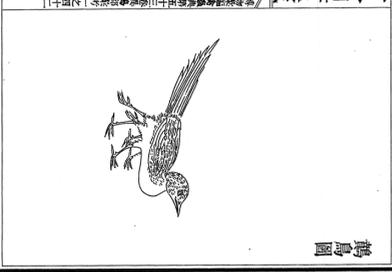
① 鶻鳥之圖 ② 鶻鳥之圖 ③ 鶻鳥之圖 ④ 鶻鳥之圖 ⑤ 鶻鳥之圖 ⑥ 鶻鳥之圖 ⑦ 鶻鳥之圖 ⑧ 鶻鳥之圖 ⑨ 鶻鳥之圖 ⑩ 鶻鳥之圖 ⑪ 鶻鳥之圖 ⑫ 鶻鳥之圖 ⑬ 鶻鳥之圖 ⑭ 鶻鳥之圖 ⑮ 鶻鳥之圖 ⑯ 鶻鳥之圖 ⑰ 鶻鳥之圖 ⑱ 鶻鳥之圖 ⑲ 鶻鳥之圖 ⑳ 鶻鳥之圖 ㉑ 鶻鳥之圖 ㉒ 鶻鳥之圖 ㉓ 鶻鳥之圖 ㉔ 鶻鳥之圖 ㉕ 鶻鳥之圖 ㉖ 鶻鳥之圖 ㉗ 鶻鳥之圖 ㉘ 鶻鳥之圖 ㉙ 鶻鳥之圖 ㉚ 鶻鳥之圖 ㉛ 鶻鳥之圖 ㉜ 鶻鳥之圖 ㉝ 鶻鳥之圖 ㉞ 鶻鳥之圖 ㉟ 鶻鳥之圖 ㊱ 鶻鳥之圖 ㊲ 鶻鳥之圖 ㊳ 鶻鳥之圖 ㊴ 鶻鳥之圖 ㊵ 鶻鳥之圖 ㊶ 鶻鳥之圖 ㊷ 鶻鳥之圖 ㊸ 鶻鳥之圖 ㊹ 鶻鳥之圖 ㊺ 鶻鳥之圖 ㊻ 鶻鳥之圖 ㊼ 鶻鳥之圖 ㊽ 鶻鳥之圖 ㊾ 鶻鳥之圖 ㊿ 鶻鳥之圖

32



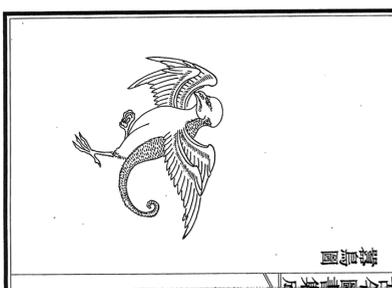
鶻鳥圖

31



鶻鳥圖

30

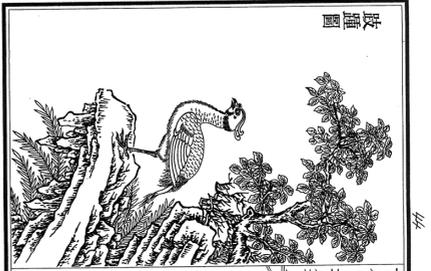
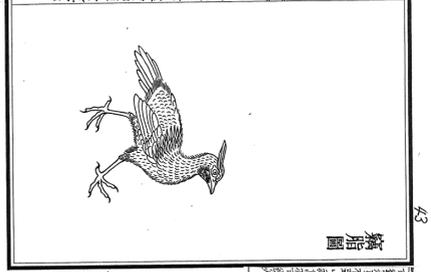


鶻鳥圖

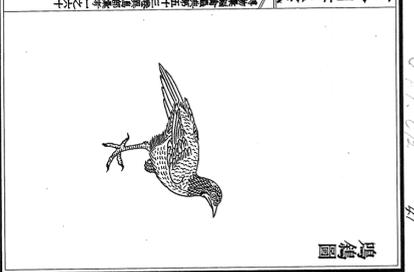
29



鶻鳥圖



脂 痛
 ① 正字又曰不取
 ② 正字又曰不取
 ③ 正字又曰不取
 ④ 正字又曰不取
 ⑤ 正字又曰不取
 ⑥ 正字又曰不取
 ⑦ 正字又曰不取
 ⑧ 正字又曰不取
 ⑨ 正字又曰不取
 ⑩ 正字又曰不取
 ⑪ 正字又曰不取
 ⑫ 正字又曰不取
 ⑬ 正字又曰不取
 ⑭ 正字又曰不取
 ⑮ 正字又曰不取
 ⑯ 正字又曰不取
 ⑰ 正字又曰不取
 ⑱ 正字又曰不取
 ⑲ 正字又曰不取
 ⑳ 正字又曰不取
 ㉑ 正字又曰不取
 ㉒ 正字又曰不取
 ㉓ 正字又曰不取
 ㉔ 正字又曰不取
 ㉕ 正字又曰不取
 ㉖ 正字又曰不取
 ㉗ 正字又曰不取
 ㉘ 正字又曰不取
 ㉙ 正字又曰不取
 ㉚ 正字又曰不取
 ㉛ 正字又曰不取
 ㉜ 正字又曰不取
 ㉝ 正字又曰不取
 ㉞ 正字又曰不取
 ㉟ 正字又曰不取
 ㊱ 正字又曰不取
 ㊲ 正字又曰不取
 ㊳ 正字又曰不取
 ㊴ 正字又曰不取
 ㊵ 正字又曰不取
 ㊶ 正字又曰不取
 ㊷ 正字又曰不取
 ㊸ 正字又曰不取
 ㊹ 正字又曰不取
 ㊺ 正字又曰不取
 ㊻ 正字又曰不取
 ㊼ 正字又曰不取
 ㊽ 正字又曰不取
 ㊾ 正字又曰不取
 ㊿ 正字又曰不取



耕 奇
 ① 正字又曰不取
 ② 正字又曰不取
 ③ 正字又曰不取
 ④ 正字又曰不取
 ⑤ 正字又曰不取
 ⑥ 正字又曰不取
 ⑦ 正字又曰不取
 ⑧ 正字又曰不取
 ⑨ 正字又曰不取
 ⑩ 正字又曰不取
 ⑪ 正字又曰不取
 ⑫ 正字又曰不取
 ⑬ 正字又曰不取
 ⑭ 正字又曰不取
 ⑮ 正字又曰不取
 ⑯ 正字又曰不取
 ⑰ 正字又曰不取
 ⑱ 正字又曰不取
 ⑲ 正字又曰不取
 ⑳ 正字又曰不取
 ㉑ 正字又曰不取
 ㉒ 正字又曰不取
 ㉓ 正字又曰不取
 ㉔ 正字又曰不取
 ㉕ 正字又曰不取
 ㉖ 正字又曰不取
 ㉗ 正字又曰不取
 ㉘ 正字又曰不取
 ㉙ 正字又曰不取
 ㉚ 正字又曰不取
 ㉛ 正字又曰不取
 ㉜ 正字又曰不取
 ㉝ 正字又曰不取
 ㉞ 正字又曰不取
 ㉟ 正字又曰不取
 ㊱ 正字又曰不取
 ㊲ 正字又曰不取
 ㊳ 正字又曰不取
 ㊴ 正字又曰不取
 ㊵ 正字又曰不取
 ㊶ 正字又曰不取
 ㊷ 正字又曰不取
 ㊸ 正字又曰不取
 ㊹ 正字又曰不取
 ㊺ 正字又曰不取
 ㊻ 正字又曰不取
 ㊼ 正字又曰不取
 ㊽ 正字又曰不取
 ㊾ 正字又曰不取
 ㊿ 正字又曰不取



畢方圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

鸚鳥圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

57

53



鵬圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

啖金鳥圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

52



飛廉圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

無對鳥圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

54



白鷺圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

伯西爾喜鵲圖

古今圖書集成

博物彙編 禽蟲典 卷之六十一

56

